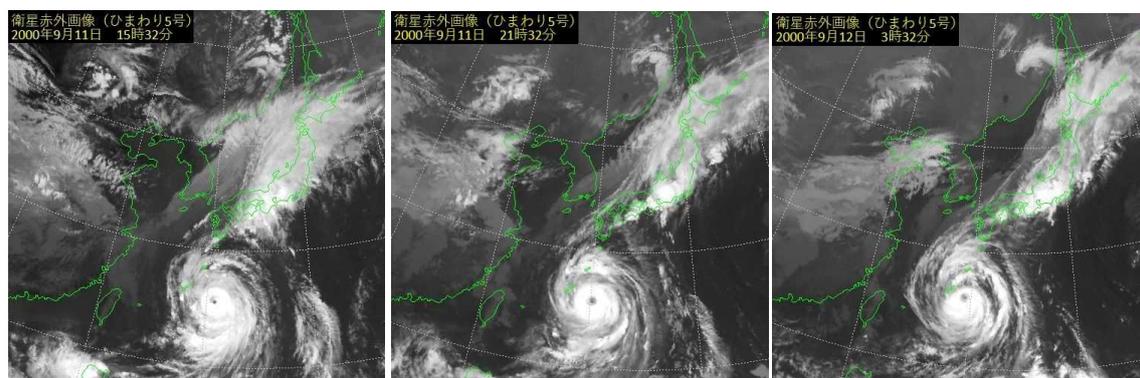
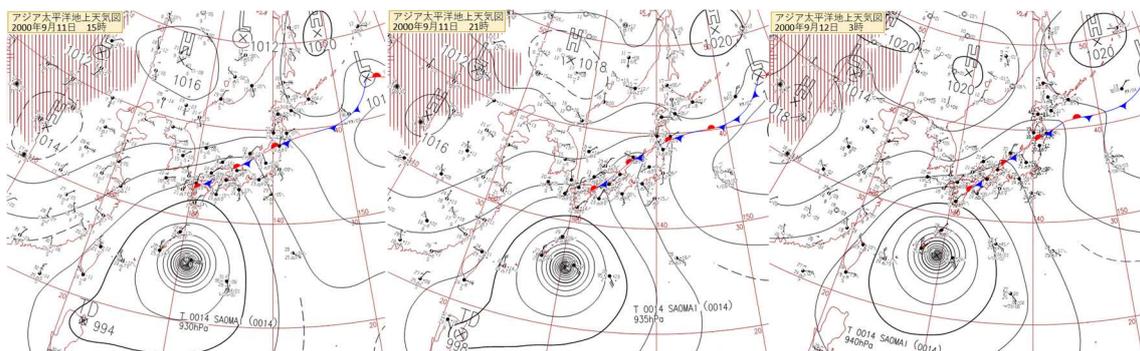


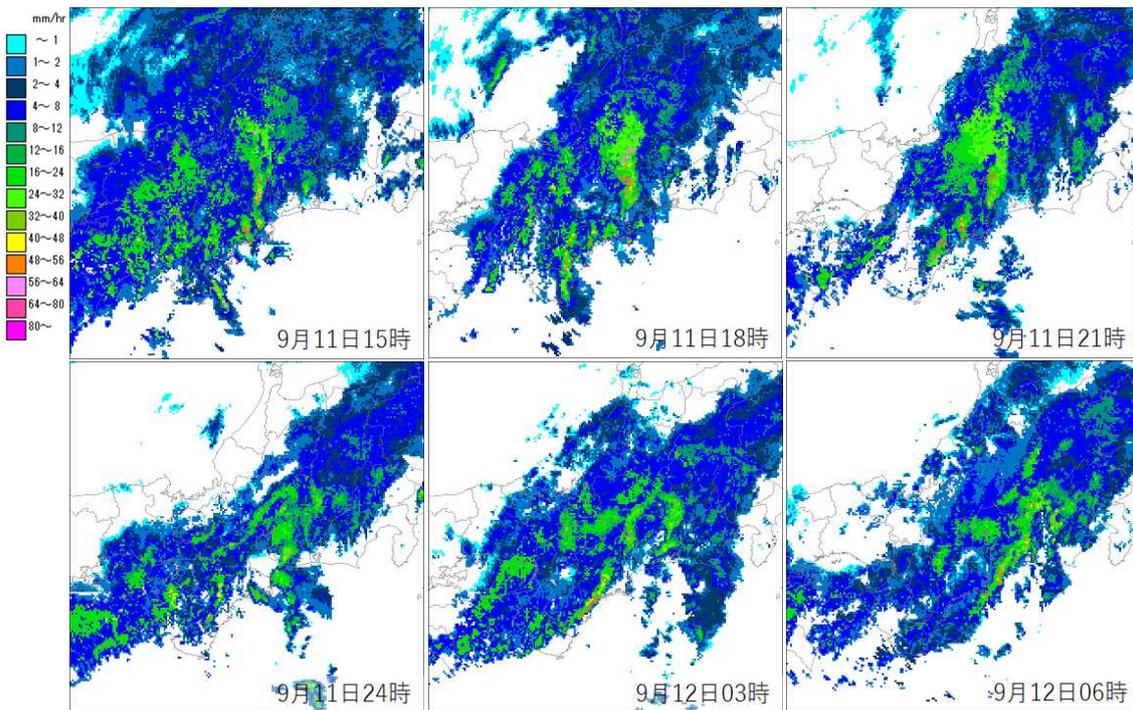
平成12(2000)年9月11～12日 停滞前線と台風第14号による大雨(東海豪雨)

概況

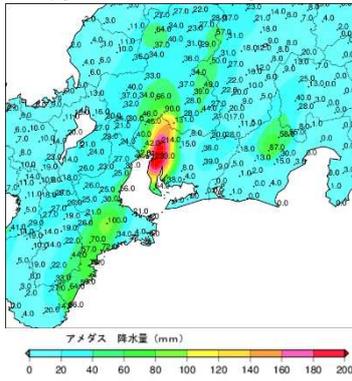
平成12年9月11日から12日には、日本付近に前線が停滞していました。また、大型で非常に強い台風第14号が日本の南にあって、11日9時には大型で強い勢力を保ちながら、南大東島の東南東の海上をゆっくりと北西に進んでいました。この台風の東側から暖かく湿った空気が前線に向かって多量に流れ込んだことから、東海地方では大気の状態が非常に不安定となって断続的に雨が降り続き、特に線状降水帯が発生した三重県南部・中部から愛知県西部にかけては猛烈な雨や非常に激しい雨が降り続けました。日最大1時間降水量は名古屋地方気象台(以下「名古屋」)97.0mm、アメダス東海※1(以下「東海」)114mm、日降水量は名古屋428.0mm、東海492mmとなり、いずれも令和2年8月現在も観測史上第1位となっています。48時間降水量では、名古屋567.0mm、東海589mmと共に平年の年降水量の3分の1を超えるなど記録的な大雨となりました。名古屋市及びその周辺の市町村では堤防の決壊、河川の越水により広範囲で浸水害が発生し、都市機能が麻痺する甚大な災害が生じて「都市型水害」の脅威を改めて認識させるものとなりました。このほか、各地で土砂災害や南知多町や美浜町及び名古屋市緑区では竜巻による被害も発生しました。

※1 東海市にあったアメダス東海は2012年10月17日で観測を終了し、大府市に移設したため2012年10月17日までの統計

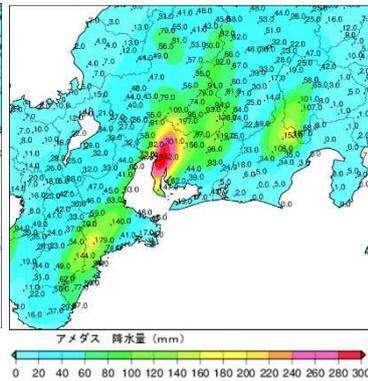




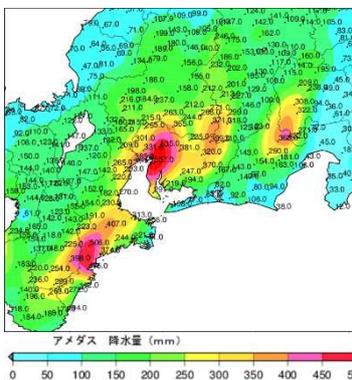
3時間降水量
9月11日18時~21時



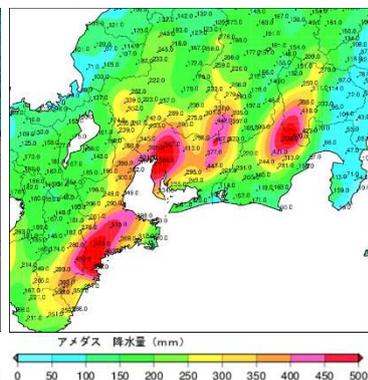
6時間降水量
9月11日18時~24時



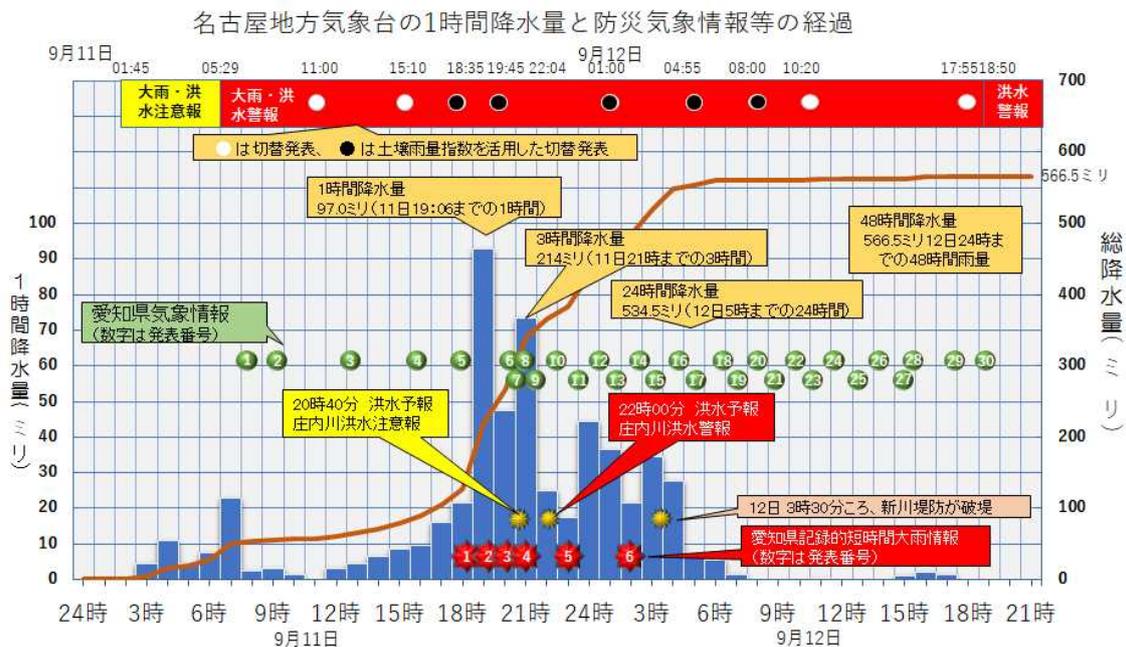
24時間降水量
9月11日05時~12日



48時間降水量
9月11日00時~12日

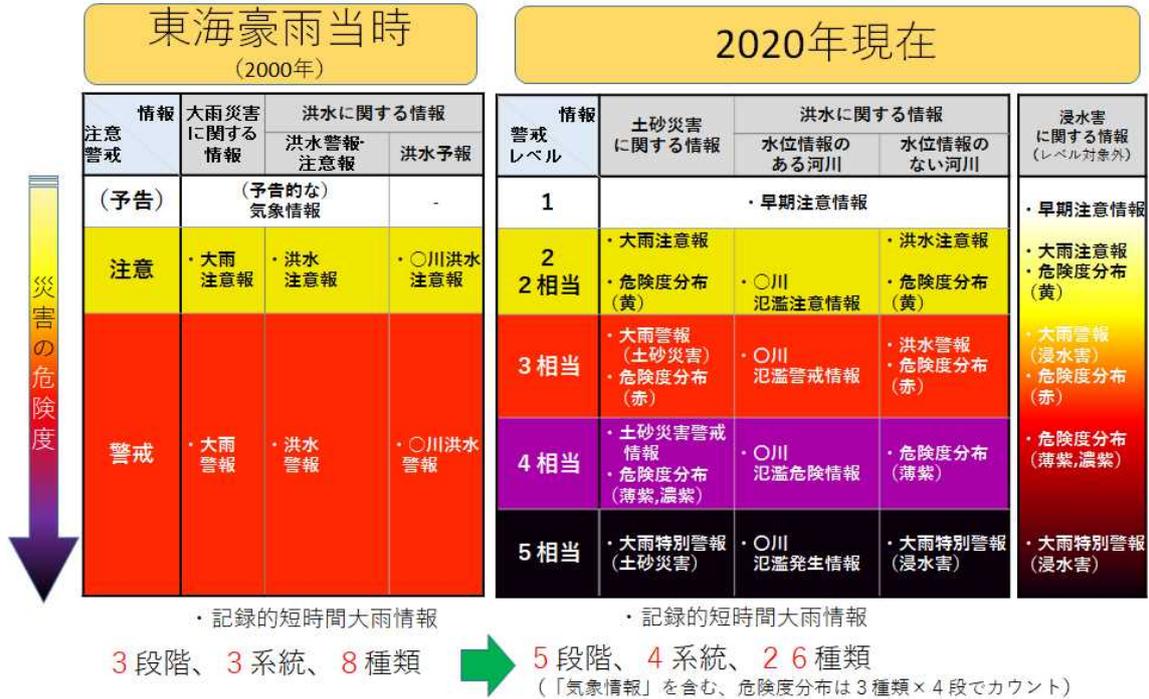


注) 図中の雨量積算値は、当時のアメダス積算雨量に基づいて作成しているため、実際の雨量値と異なることがあります。



名古屋地方気象台の1時間降水量と積算降水量の時系列変化に、防災気象情報の発表状況を重ね合わせました。9月11日未明から弱い雨が降り始め、強弱を繰り返しながら雨は降り続けました。夜になると急激に雨が強まり、19時6分までの1時間に97.0ミリの猛烈な雨を観測しました。21時過ぎには一旦雨が弱まりましたが、24時前から再び強まり、12日朝まで降り続けました。名古屋地方気象台では、11日1時45分に県内全域に大雨・洪水注意報を、5時29分に西部に大雨・洪水警報を発表し、その後9回にわたって警報を切り替えました。当時はまだ土砂災害警戒情報の運用が始まっていませんでしたので、大雨警報発表後に土砂災害の危険性が高まったときには、大雨警報を切り替えて「過去数年間で最も土砂災害の危険性が高まっている」という表現を用いて土砂災害に対する一層の警戒を呼びかけました。また、愛知県気象情報を12日にかけて30号まで随時発表し、刻々と変わる状況や気象台の危機感を伝え続けました。さらに、記録的短時間大雨情報を6回発表しました(当時の基準は1時間90ミリ(現在は100ミリ))。注:警報・注意報は愛知県「西部」に発表・切替した時刻を示しています。

大雨時に発表する防災気象情報の比較



「避難勧告等に関するガイドライン①」(2019 内閣府)表2に浸水害を追加

上図は、大雨時に発表する防災気象情報の2000年東海豪雨当時と2020年現在との比較です。2000年当時は、大雨に関して、3段階、3系統、8種類(記録的短時間大雨情報を含む)の情報しかありませんでした。2020年現在は、大雨に関して、5段階、4系統、26種類の情報を提供しています。これは、・大雨が浸水害か土砂災害かを区別できる等になったこと・洪水予報が4段階になったこと・土砂災害警戒情報が運用開始となったこと・特別警報が創設されたこと・3種類の危険度分布が出そろったこと・早期注意情報が始まったこと・これらの情報が5段階の警戒レベル・相当情報に対応付けられたことなどによるものです。想定される災害の種類や程度または切迫度に応じてきめ細かく段階的に情報提供できるようになったことが分かります。

(参考)名古屋地方気象台における極値更新

要素	観測値	観測した日時	従来値とその観測年月日
日最大1時間降水量	97.0 mm	9月11日18時06分 ～ 11日19時06分	92.0 mm(1919(大正8)年7月18日)
日降水量	428.0 mm	9月11日	240.1 mm(1896(明治29)年9月9日)
月最大24時間降水量	534.5 mm	9月11日05時 ～ 12日05時	315.9 mm(1896(明治29)年9月9日)

日降水量や最大24時間降水量は、第2位と比べても大きな差があるなど、記録的な大雨となりました。

注) 極値の統計は令和2年9月1日現在

(参考)愛知県被害状況(平成12年9月11日からの大雨による災害の記録:愛知県 から)

人的被害	死者(人)		7	住家	全壊(棟)		18		
	負傷者	重傷(人)			20	半壊(棟)		154	
		軽傷(人)			87	一部破損(棟)		147	
土木関係 (県管理施設)	河川(箇所)		551	土木関係 (市町村管理施設)	床上浸水(棟)		22,078		
	砂防(箇所)		168		床下浸水(棟)		39,728		
	道路(箇所)		225	土木関係 (市町村管理施設)	河川(箇所)		576		
	港湾(箇所)		4		道路(箇所)		2,461		
	漁港(箇所)		2		港湾(箇所)		1		
	橋りょう(箇所)		2		漁協(箇所)		6		
	都市施設(箇所)		33		橋りょう(箇所)		10		
農地関係	農地(箇所) (ha)		678	農業	都市施設(箇所)		766		
		ため池			21	施設被害	共同利用施設		5件
		頭首工			67		非共同利用施設		14件
							地方公共団体施設		3件
	農業用施設 (箇所)	水路			187	農作物等被害	水稻(ha)		1,653
		揚水機			24		雑穀・芋・豆類		265ha
		道路			133		野菜(ha)		861
		橋梁			2		果樹(ha)		164
		農地保全施設			3		花き(ha)		4
	集落配水施設		1		樹体(ha)		12		
林業	崩壊地(箇所)		151	水産業	家畜等(件)		8		
	林道被害(箇所)		305		共同利用施設(千円)		853		
	林産施設(箇所)		1		非共同利用施設(千円)		5,500		
	林産物(箇所)		1		漁船(隻)		13		
商工関係被害(千円)			240,734,010		養殖施設(千円)		18,905		
衛生関係被害	災害廃棄物発生量(トン)		約 81,400		養殖物(千円)		56,474		
	医療施設(施設数)		109	文教関係被害	学校施設(件)		175		
	社会福祉施設(施設数)		93		文化財(件)		19		
			社会教育施設(件)		15				
			社会体育施設(件)		38				
					給食施設(件)		6		